



模擬国連定例会 2019 年冬

補足および Q&A (BG・PPP 編)

2019 年 12 月 24 日 更新
模擬国連定例会 事務局

<12 月 24 日更新>

・食肉について、馬肉や羊肉、ラクダ肉などのあまり穀物を消費しない肉類は含めるのか。

→ 今回食肉についてその種類を限定することは致しませんが、主なターゲットは牛肉、豚肉、鶏肉の 3 種類、とりわけ牛肉を念頭に置くことになるでしょう。羊肉はオセアニア、中国、ヒンドゥー・イスラム宗教圏では一般的な食肉で、欧米圏でも日本よりポピュラーな食肉です。今回、食肉を類別することは「牛肉から羊肉へのシフト」などといった観点からは意義のあるものかもしれませんが、現在の羊肉生産量を考えると、少なくとも短中期的にはその効果はごく限定的なものと考えられます。それよりも、肉好きの人は結局種類を問わず多く食べ、食肉消費のトレンドが変わらない限り、上記 3 種類の食肉の人気は大きく変わりません。その点では、まずは種類を問わず食肉という大きな括りで考えていくことも必要になります。政策と議論に合わせて、食肉全体を話すのか、類別して話すのかは各大使で判断をしてください。

<12 月 22 日更新>

・BG の P21、論点 1 にある図 11「世界の穀物消費の内訳」では食用と飼料に関する割合が書かれているが、論点 2 ではバイオ燃料も穀物を多く消費していることについて触れているのにも関わらず、バイオ燃料に関しての割合が記載されていない。また、実際にバイオ燃料には世界の穀物のどのくらいの割合が消費されているのかを教えてください。

→ おっしゃる通り、世界の穀物は食用、飼料、バイオ燃料という主に 3 つの用途で消費されていると考えて下さい。飼料用の食料が増えるにつれ、私たちの食用の食料が不足し、高騰するとともに、近年ではバイオ燃料が増え、飼料用の食料も不足、高騰している傾向があります。やや古い資料になりますが、農林水産委員会調査室が出した[「我が国の農業政策と国際的な食料価格高騰」](#) (2008 年) という文書に「バイオ燃料生産と食料・飼料用作物供給との競合」という項目があります (P29)。そこでは燃料としての農産物と食料、飼料としての農産物という議論の構図が見受けられます。まず食料の第一の活用方法に「食べるための農産物」という伝統的な消費があり、その中で「人間の食料と家畜の飼料」という構造があって、この対立軸は歴史を遡っても見られることです。その一方、食べるという本来の目的を失った「燃料としての農産物」は、技術革新に伴って出てきた新しい第二の活用方法で、今、世界の食糧安全保障を脅かすほどに成長し

ています。よって、BG では、食べる食料という枠組みの中で食用と飼料を論点 1 で論じ、食べるための農産物と燃料としての農産物という対立軸を論点 2 で論じているということをご理解ください。ただし、それら 3 つの用途の割合やバイオ燃料に使われる穀物の量など、BG 以上の内容は大使のリサーチに任せるものであり、多様な資料から概要をつかんでいただくようお願いいたします。

- ・(C 国からの質問) 紛争に関する議論はアウトオブアジェンダとのことだが、現状を確認する過程で触れることは可能か(紛争があるので、という事実確認が可能かどうか)。周辺国と資源の分配で問題を抱えているのだが、それはアウトオブアジェンダに含まれるのか。

→ 今回の参加国の中では「食料問題＝近隣諸国との領土問題、河川問題」となっており、切り離せない国もあります。その場合、紛争やそれらの諸問題を念頭に置かずに議論ができないことも承知していますし、難民を多く抱える国はその食料問題は紛争に行きつくこともあるでしょう。それらが背景として議論されることは問題ありませんし、ある意味必須事項であろうかと思えます。ただし、BG に記載されている通り「紛争は食糧不足の最大の原因」とされていますが、これをメインテーマとして扱うと論点がずれてしまいますし、紛争議論になってしまいます。ですので、「紛争が原因で食料に行きつかない人がある、食料生産ができない」ということは前提として議論し、スポンサーの同意があれば前文レベルで述べることは可能ですが、「紛争や近隣国との諸問題をどう解決するのか」といったように、それらを主たる主語、目的語として政策を語ることはできませんし、紛争や諸問題に関する解決を図ることを意図することは認められません。

- ・BG の 3-4、論点 4 の「食料分配とアクセス保障について」。P35 には「投機と現状」という項目が設置されているが、一方アウトオブアジェンダには経済対策と表記されている。食料の投機問題に関しては、食料価格の高騰を抑えるなど経済対策が必ず関わってくると思うが、具体的にどのラインまでがアウトオブアジェンダなのか。

→ これは BG の説明が不足していた部分があるかと思います。ここでのいう経済対策というのは「食料安全保障に対する経済的な手段、政策」を指すものではありません。どちらかと言うと景気対策や貧困対策という言葉でとらえていただければと思います。根本的な問題として、貧困を解決しなくては食糧安全保障も達成されないという図式が当然のようにありますが、貧困問題そのものを議論していく会議ではなく、貧困に対する経済対策や食料生産を活性化させる前提としての市場経済に対する対策などを考えることは論点外と考えています。一方で、おっしゃる通り、食料の投機や価格の問題は当然経済と絡んでくるため、食料安全保障に対するこれらの経済的な手段、政策は「食料安全保障」という枠の中で今会議において議論されるべき内容です。なお、貧困についてはそれ自体がアウト・オブ・アジェンダに設定されていますが、上記の「紛争」と同

様に、背景として前文レベルで話し合うことは許容できますが、貧困を主たる主語、目的語として政策を語ることはできません。

- ・気候変動などの外的要因はアウトオブアジェンダになっているが、気候変動に伴う干ばつについて例えば灌漑農業と関連づけて議論するのは許容できるのか。外的要因をどこまで含むのか。

→ 上記の紛争、経済対策、貧困と同様に、食料安全保障に十分意義のある形で背景として前文レベルで議論することは許容できますが、それを主たる主語、目的語として政策を語ること、もしくは外的要因に関する直接的解決を図ることは認められません。

<12月20日更新>

- ・アウト・オブ・アジェンダに「経済の専門的な議論」とあるが、どのようなことを専門的とするのか。例えば「投機の抑止措置」「先物取引の抑制／調整」などは議論してよいのか、専門的とされるのか。

→ 何が専門的なのかという定義やラインを一律に施すことはできませんが、経済議論に関わらず、「専門性」という観点で皆さんに留意していただきたいのは、「周りの大使がその政策や議論の理解ができているのか」ということです。高校の政治経済などで出てくる事柄や一般紙で報道されるニュースは（理解度に個人差はあれども）「専門的ではない」と判断できますが、大学の経済学部のセミナーでないと学ばないような専門理論や事象、経済新聞のみで扱われる深い議論は一般的に高校生にとっては「専門的である」と言えます。重要なのは、たとえそのような内容であっても説明をし、議論を交わす中で他の大使の共通理解を構築できれば良いでしょうが、説明を施しても分からないような専門的な内容に終始することは有意義とは言えませんし、まして説明をせずにそのことだけを話し、仮に正しい事象や分析だとしてもごく一部の大使しか分からない議論を行うことは認められません。会議に参加するのは大使の皆さんである以上、議論の内容の深さも大使の皆さんで決めるべきだと思います（「ごく一部の大使」ではなく「大使の皆さん」ということが重要です）。しかし、一方で、詳しすぎる政策を出すデメリットとしては、①今回多くの論点が存在するので、議論したい内容全てに触れる時間がなくなる、②専門的なほど、反対する国が多くなる（場合によっては対立 DR になってしまう）ということあわせて留意してください。なお、具体例で挙げられた内容は、それ自体は今回の会議で当然議論される内容に入り、価格調整の際に書籍や関連サイト、ニュースでも出てくる事象であり、アウト・オブ・アジェンダにあたると判断はいたしません。それをどの深さまで話して、どのような専門的な指標を出すのか、というところは上述の見解に従ってください。

<12月17日更新>

・ 第二世代バイオ燃料に関して： BG の P25 に第二世代バイオ燃料の章の上から 3 行目に木材、草本類、農作物の残渣を使用するとの記載があるが、下から 3 行目の土地資源の投入に繋がる過程がよく理解できない。残渣とは後に残った不要物のことだが、初めから残渣目的で土地を回すことに問題があるということか。

→ 第二世代バイオ燃料は、トウモロコシなどの元々食べられるものを燃料することが問題に挙げたためにその代わりとして木材や草本類、農作物の残渣等の食べられないものを使って燃料を生産する技術です。しかし第二世代バイオ燃料を生産するために木材や草本類を作る土地を拓くということは、その土地で食物を作ることができたにも関わらず第二世代バイオ燃料のために食べられないものを作ってしまうということになってしまいます。それは本来生産できたはずの食物を生産できないことに繋がり、第二世代バイオ燃料の本来の目的である「食べられる食物を減らさない」とと矛盾してしまいます。また、「残渣目的で土地を回すのが問題なのか」とのことですが、トウモロコシの残渣のためにトウモロコシを生産することはあまりないと思われます。何故なら、残渣のためにトウモロコシを生産したところで食物としてのトウモロコシは収穫出来ますのでそれは第二世代バイオ燃料の本来の目的を達成していることになり、「残渣目的で土地を回す」こと自体がそもそも成り立たなくなってしまうからです。

・ 畜類の排泄物からメタンガスを取り出すなど BG 中に記載がないエネルギーの生産方法も第二世代バイオ燃料に含まれるのか。

→ メタンガスについてですが、今回の議題である食料安全保障に関わりの強いセルロース系の第二世代バイオ燃料のみが原則としては議論対象になると考えています。ただし、広い議論を担保するために畜類の排泄物からメタンガスを取り出すなどセルロース系以外の第二世代バイオ燃料についてもあえてアウト・オブ・アジェンダに設定しませんが、議論にする場合は食糧安全保障として十分意義のある形で話を進めるようにお願いいたします。

・ (A 国からの質問) A 国の土地が B 国に占拠されているが。それ以前は A 国は世界的な食料輸出国であったが、現在はその影響で逆に食料生産が不足している。今回の会議でこの問題に触れても構わないか。

→ 政治的問題によって食料が供給できない状態を背景として議論するのは許容範囲ですが、二か国間での議論は国連の場ですべきものではなく、その固有の問題について具体的な政策に踏み込むことはないようお願いいたします。

<12月14日更新>

- ・三大穀物の定義について、以下のように異なる表記がなされている。

P16 では三大穀物：小麦、大豆、とうもろこし

P21 では三大穀物：小麦、米、とうもろこし

→ 小麦、米、とうもろこし に統一してください。

<12月11日更新>

- ・P39 アウトオブアジェンダの項目①「人口増加のシミュレーションは多種あるが、今会議では〇〇を前提とする。」

→ P13 の「World Population Prospect 2019」のシミュレーションを前提とします。